



今後のポイント: 病害虫・雑草防除, 排水対策の再点検, 収穫機械・乾燥施設の点検・整備

6~9月上旬の気象経過と一か月予報

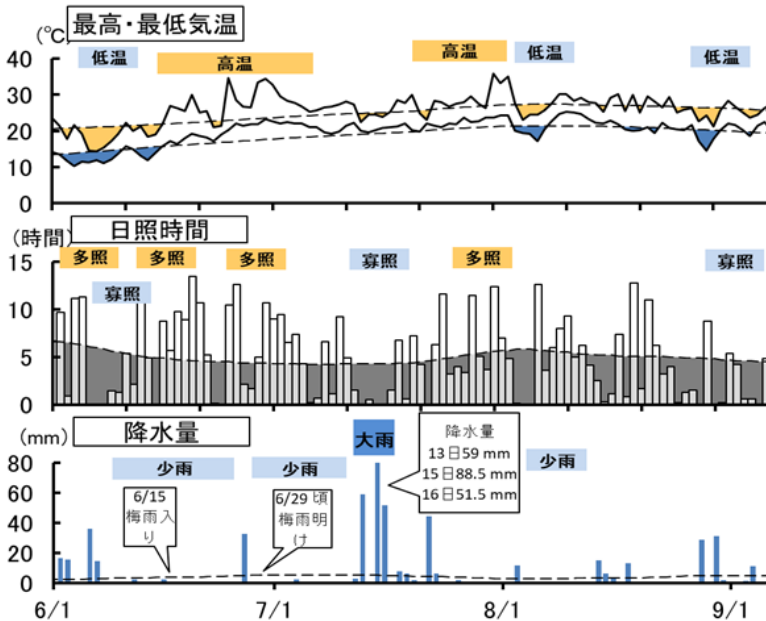


図1 気象経過 (アメダス石巻)

※上: 最高・最低気温, 中: 日照時間, 下: 降水量
※点線は平年値

◆8月: 気温・降水量は平年並みでやや寡照

・8月の平均気温は平年より+0.2℃高く, 日照時間は平年比 80%と平年並みで, 降水量は平年比 99%と多くなりました。

◆9月上旬: 降水量, 日照時間ともに少ない

日平均気温は平年差+0.6℃とほぼ平年並み, 日照時間は平年比 49%と少なく, 降水量も平年比 65%と少なくなりました。

◆向こう1か月予報(9/10 ~ 10/9)

1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)

【気温】 10 30 60

【降水量】 30 40 30

【日照時間】 40 30 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目 10 30 60

2週目 10 30 60

3~4週目 20 30 50

■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

生育調査(9月1日)

主茎長は短めだが, 主茎節数, 分枝数はほぼ平年並。

表1 9月1日生育調査 (牛田は8月29日, 広瀬と蛇田は8月30日)

品 種 (作型)	地点名 (旧市町)	播種日(月日)			開花日(月日)			7/15~16大雨 浸・冠水期間 ^{注)}	主茎長(cm)			主茎節数(節/本)			分枝数(本/本)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
タンレイ (普通)	広瀬 (河南)	6/18	+7	+3	8/01	+4	-2	少	48.3	-6.1	-13.1	13.5	+0.8	-0.2	2.4	-0.5	-0.1
タンレイ (麦あと)	水沼 (石巻)	6/10	0	-3	7/30	+1	-1	中	38.0	-43.0	-29.5	6.6	-7.4	-6.8	3.5	+0.5	+0.5
タチナガハ (麦あと)	蛇田 (石巻)	6/22	+21	+11	8/02	+7	0	少	50.8	-9.6	-8.9	14.2	+0.0	+0.4	3.0	-0.3	+0.3
ミヤギシロメ (普通)	小船越 (河北)	6/02	-7	-17	8/03	-2	-8	少	93.3	+7.4	+12.0	17.0	+1.6	+1.9	2.5	-1.1	-1.0
ミヤギシロメ (麦あと)	牛田 (桃生)	6/21	+14	+2	8/13	+6	+1	少	92.2	-6.6	-2.0	15.9	-0.1	+0.3	3.6	+0.2	0

注)浸・冠水期間は, 普及センターの現場確認や聞き取りにより無(なし), 少(1~2日), 中(3~7日), 多(7日以上)で評価

平年差・比は, H29~R3の5か年平均(平年値)との差・比, 「-」は早い, 短い, 少ない, 「+」は遅い, 長い, 多いを示す。

◆主茎長は小船越のミヤギシロメを除くと, 前年と平年を下回っています。

◆主茎節数は水沼のタンレイを除くと, ほぼ前年・平年並みです。

◆分枝数は, 小船越のミヤギシロメが前年・平年より1本程度少なく, 水沼タンレイが0.5本多くなっています。

今後の管理

◆ 排水対策

- ◎ 今後も、排水溝や明きよの点検・整備をするとともに、大雨が予想される場合には、地表排水の効果を高めるために、枕地のあぜを切って溝を作り、排水溝につなげましょう。

◆ 雑草対策

- ◎ 9月以降多くの雑草が種子をつけ始めるため、イヌホオズキやアレチウリなどの難防除雑草の多いほ場では、早めに除草を行いましょ。
- ◎ タデ類やアメリカセンダングサ、シロザ、イヌホオズキなどの大型雑草は、コンバイン収穫時に汚粒の原因となります。雑草が種子を作らないうちに手取り除草を行いましょ。
- ◎ 大豆落葉終期～収穫14日前までは「つり下げノズル」や「万能散布バー」を利用したラウンドアップマックスロード(対象雑草:一年生雑草)による雑草茎葉散布(大豆の茎葉・莢に直接かけないように散布する方法)が可能です。大型雑草は茎や果実の水分が低下しにくく、汚粒の原因となる場合があるので、手取り除草を行いましょ。



タデ類



シロザ



イヌホオズキ

- ◎ ほ場に落ちた種子は湛水(水田)状態でも3年以上は生存するので、ブロックローテーションによる田畑輪換で減少することはありません。種子をつけた雑草は、ほ場外に搬出しましょ。

- ◎ アレチウリや帰化アサガオなどのつる性雑草が畑に侵入しているほ場が確認されています。減収や収穫作業に重大な障害を及ぼす可能性があります。手取り除草を行いましょ。有効な土壌処理剤の利用や体系処理による防除が有効です(宮城県「普及に移す技術」第90号参照)。



ダイズ畑に侵入している帰化アサガオ



宮城県「普及に移す技術」第90号

◆ 病虫害対策

◎ダイズ黒根腐病にり病していると推定される黄化した株が散見されます。本病は農薬を含め、有効な防除技術がなく、一度発生すると根絶が難しい病気です。罹病株の抜き取りや排水対策などの対策を徹底しましょう。



ダイズ黒根腐病のリスク診断・対策マニュアル
(農研機構 中央農業研究センター2020年3月)

◎一部の地域でダニの被害が確認されています。著しい減収が予想される場合は、散布に要する費用を勘案し、必要に応じて農薬を散布してください(表2)。

◎べと病の発生量は「平年並」の予想です(宮城県病害虫防除所発生予報第6号 大豆—令和4年8月26日発行)。発生が多い場合には、防除を行いましょう。

べと病菌はり病植物上で卵胞子を形成して越冬するので、発生の多少に関わらず、ダイズの残さを深くすき込んで、次年度以降の発生を抑制しましょう。



ダイズ黒根腐病と見られる黄化株(左)と枯死した株の根の病徴(右)(2022年9月)

ダニの食害により変色したダイズと枯死した株(2022年9月)

表2 ダイズで登録のあるダニ剤

農薬名	使用時期	希釈倍数使用量	散布液量	本剤の使用回数	RACコード
トクチオン乳剤	収穫30日前まで	1000~1500倍	100~300L/10a	3回以内	I:1(B)
ニッソラン水和剤	収穫7日前まで	2000~3000倍	100~300L/10a	2回以内	I:10(A)
コロマイト乳剤	収穫7日前まで	1500倍	100~300L/10a	2回以内	I:6
カスケード乳剤	収穫7日前まで	4000倍	100~300L/10a	2回以内	I:15
マラソン乳剤	収穫7日前まで	2000~3000倍	100~300L/10a	3回以内	I:1(B)
マラソン粉剤3	収穫7日前まで	3kg/10a		3回以内	I:1(B)

令和4年8月30日の農薬登録内容を基準に作成しています。農薬散布を行う場合は事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。また、農薬使用の際には飛散防止対策を講じてください。